

ネットワークで強まった「治す力」

特集

『G-Pネット』って？

「精神科病院」と「総合病院」を結ぶ治療のネットワーク

宇治おうばく病院では、地域の総合病院と連携して治療を進める「G-Pネット」を、早い時期から先駆的に進めてきました。「G-Pネット」とはどのようなもので、それがあつてどのように適切な治療に役立っているのかを、関わりの深い2人の医師にうかがいました。



岡 正悟 (おか しょうご) / 精神科医



清水義博 (しみず よしひろ) / 救急医・外科医

「困った時に助け合う」協体制作り

Q 今回のテーマは「G-Pネット」です。

「G」は「Generalist＝一般医」で、「P」は「Psychiatrist＝精神科医」の略。つまり、精神科病院と地域の総合病院が連携することで、患者さんに適切な医療を提供するためのネットワークのことですね。そもそも、宇治おうばく病院が「G-Pネット」を立ち上げようとしたいきさつはどういうことなのでしょう？

岡 最初に断つておきますと、一般には「G-Pネット」と言う場合、「うつ病治療に特化した、一般病院と精神科病院の連携ネットワーク」を指すことが多いようです。それに対して当院の「G-Pネット」は、一般救急と精神科救急の連携がメインです。その点をまずご理解ください。

たとえば、認知症の高齢者が身体の不調を訴えたり精神疾患から自殺未遂された方が一般救急病院に救急搬送されたり、生活習慣病の治療を受けながら精神科にも通院していたり……。そういった連携はG-Pネットを立ち上げる以前から行われていたわけです。

ただ、「そういう連携を、もっとシステムティックにルールをきちんと決めてやったほうがいいんじゃないか」という内部からの要請があつて、「G-Pネット」を立ち上げました。以前は、「連携」がスムーズにいかないケースも多かったからです。

本来なら総合病院の中に精神科病棟があり精神科医もいるという形が理想的ですが、日本にはそのような総合病院が少ないですから、「地域の病院同士が連携して精神科も診れる総合病院を作る」のが合理的なのです。